

カ Z 「機動戦士ガンダム SEED DESTINY」

ガイアガンダム

機体名	ガイアガンダム	画像
型式番号	ZGMF-X88S (強奪後はRGX-03)	
英語名	GAIA GUNDAM	
所属	ザフト軍地球連合軍	
パイロット	ステラ・ルーシェ、リーカ・シェダー	
装甲材質		
装備	頭部機関砲：MMI-GAU25A 20 ミリ CIWS 背部 ビーム砲：MA-81R ビーム突撃砲背部機関砲： MMI-GAU1717 12.5 ミリ機関砲背部ビームカッ ター：MR-Q17X グリフォン2 ビームブレイド ビームサーベル：MA-M941 ヴァジュラ ビーム サーベルビームライフル：MA-BAR71XE 高エ ネルギービームライフルシールド：MMI-RS1 機 動防盾	
作品名	機動戦士ガンダム SEED DESTINY	
参考書籍	MIA データシート 0031	

内容

MIA データシート 0031

CE72年3月10日に結ばれた停戦協定・ユニウス条約に盛り込まれたさまざまな制約が、ザフト・地球連合の両軍に新たなMS開発を行わせる結果となった。

ユニウス条約には核エンジンの使用を禁止する「N ジャマーキャンセラーの使用禁止」の条項をはじめ、ミラージュコロイドの使用禁止、MS保有機数の両軍での制限などが含まれ、世界は軍縮の方向に動き始める。

そしてこのユニウス条約が、両軍の兵器開発に大きな影響を及ぼす。

「制約の中で最大限の効果を発揮する機体」の開発、たとえば制限機数が100機であれば1機で3機に相当する性能の機体を開発するといった開発スタンスのシフトが行われていくのである。この様な状況下でザフトが提示した開発プランが、ザクを始めとする主力機開発計画「ニューミレニアムシリーズ」とフリーダム・ジャスティスに次ぐ新たなガンダム開発計画「セカンドステージシリーズ」である。

インパルスに代表されるセカンドステージシリーズでは「デュートリオンビーム送電システム」など1機で戦局を左右するような革新的な技術や装備が搭載されている。

ガイアガンダムはセカンドステージのMSのうち、地上での格闘戦を主眼においた機体として開発されたため、両腰のヴァジュラビームサーベル、背部のグリフォン2ビームブレイドと近接戦闘軽武装が充実している。

最大の特徴は四足獣型MAへの変形機構で、これはかつてのザフト地上軍主力MSであった「TMF/A-802バクゥ」で培われた四足獣型MSの技術を発展・強化させたものであり、型式番号に

は陸戦四脚系機体であることを表す「8」が付けられている。

備考

スペック

項目	内容
全高	17.8m
頭頂高	
全長	
本体重量	69.85t
全備重量	
ジェネレーター出力	
スラスタ推力	
センサ有効半径	